カリキュラム

機構施設名： 静岡職業能力開発促進センター
実施機関名： **株式会社Gサポート**

25-22-12-115-043

D. 倫理・セキュリティ	115 脅威情報とセキュリティ対策
セキュリティ対策	

コースのねらい	社内の情報セキュリティを維持するために、セキュリティポリシーの必要性を理解し、セキュリティ対策に必要な知識と技能を習得する。

		「基本項目」		「主な内容」	訓練時間（H）	日程 月日	日程 時刻
講義内容	1	脅威情報	（1）情報セキュリティの基本 ①直近の事故事例から見る情報セキュリティのテーマ ②身近な中小企業で発生した事故事案の紹介 【演習】グループディスカッション 身近な情報ヒヤリハットについての情報交換		0.50	令和7年 11月27日（木）	9:30～16:30 昼休憩 11:45～12:45
			（2）ウイルス・マルウェア ①ウイルス・マルウェアの種類と特徴 ②近年発生しているウイルス・マルウェアの事例 ⅰ）ランサムウェア ⅱ）Emotet ③有効な対策手法		0.25		
			（3）標的型攻撃 ①標的型攻撃の特徴と被害事例 ②標的型攻撃のプロセス ③進化する標的型攻撃の手法 ④有効な対策手法		0.25		
			（4）フィッシングサイト ①フィッシングサイトによる個人情報等の搾取 ②フィッシングサイトの直近での被害事例 ③有効な対策手法		0.25		
			（5）その他情報漏えいにつながる脅威 ①SNSに関するインシデント ②営業秘密の漏えい ③内部犯行		0.25		
			（6）情報漏えいによる損害 ①情報漏えいによる信用リスクと経済的損失 ②身近な情報セキュリティにおける押さえどころを把握する。 【演習】個人ワーク＆ディスカッション これまでの講義内容を振り返り、簡易なチェックリストに基づき自社の情報セキュリティ実施レベルを自己診断し課題を発見する。		0.50		
			（7）インシデント事例と対応 ①インシデント発生時の応急処置 ②事業継続の観点からの応急処置 【演習】グループワーク とある職場でのサイバー攻撃ケース事例に対し、応急処置実施項目を話し合い、計画する。		0.50		
	2	セキュリティポリシー	（1）セキュリティポリシーの必要性 ①企業における情報セキュリティの重要性 ②社内におけるセキュリティポリシーの意義		0.25		
			（2）セキュリティ対策の考え方 情報リスクアセスメントと安全対策の策定 【演習】グループワーク ケース事例に対し、簡易な情報リスクアセスメントを体験的に実践し、その結果を情報共有する。		0.50		
			（3）管理体制 ①情報セキュリティ社内組織体制について ②情報セキュリティに関する内部監査の手法 【演習】グループワーク（ロールプレイング） 内部監査チェックシートを作成し、ロールプレイングにより内部監査を実施する。		0.75		
			（4）セキュリティ対策規定集の作成 セキュリティ対策規定の体系について セキュリティ対策規定の作り方 【演習】グループワーク 一般社員向けの情報セキュリティ対策規定（フォーム）をもとに、与件の職場状況におけるセキュリティ対策規定の策定を体験する。		0.75		
	3	セキュリティ対策手法	（1）ウィルス対策及びセキュリティパッチの適用 ①ウィルス対策ソフトの機能とその限界 ②セキュリティパッチ適用の必要性について ③セキュリティパッチ適用の確認方法、設定方法 ⅰ）WINDOWSのUPDATE ⅱ）ウィルス対策ソフトその他ソフトウェアのUPDATE		0.25		
			（2）パケットフィルタリング ①パケットフィルタリングの原理と目的 ②パケットフィルタリング型ファイアウォールの例 【演習】個人ワーク（知識確認問題） パケットフィルタリングで防げる不正アクセスとは		0.25		
			（3）アプリケーションレベル・ゲートウェイ ①アプリケーションレベル・ゲートウェイの原理と目的 ②アプリケーションレベル・ゲートウェイ型ファイアウォールの例 【演習】個人ワーク（知識確認問題） アプリケーションレベル・ゲートウェイで防げる不正アクセスとは		0.25		
			（4）不正侵入検知 ①不正侵入検知システムの原理と目的 ②不正侵入検知システムの例 【演習】個人ワーク（知識確認問題） 不正新入検知システムで防げる不正アクセスとは		0.25		
			（6）ゼロトラストの考え方に基づくセキュリティ体制構築 ①ゼロトラストとは何か ②基本的な7つの考え方と実装の進め方		0.25		
				合計時間	6.00時間		

カリキュラム作成のポイント

本コースの受講者は、企業における情報セキュリティ対策を推進される方であることを想定し、基礎知識の習得から応用実践力の発展を発展を目指します。進行に当たっては実際に発生している事件・事故事例や、講師のコンサルティング現場での問題事例等を踏まえた解説や演習を多く取り入れることにより実践力の向上を図ります。また、様々な背景を持つ受講者が主体的に取り組めるグループワークを多数取り入れ、参加型の学習を促進します。